

## 研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名：医療テキスト構造化のための言語・知識処理基盤の構築
2. 研究代表者名及び主たる研究参加者名（研究機関名・職名は研究参加期間終了時点）

研究代表者

黒橋 禎夫（京都大学大学院情報学研究科 教授）

主たる共同研究者

荒牧 英治（奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科 教授）

荒瀬 由紀（大阪大学大学院情報科学研究科 准教授）

戸次 大介（お茶の水女子大学基幹研究院 准教授）

3. 事後評価結果

○評点：

A+ 非常に優れている
-------------

○総合評価コメント：

本研究課題は、医療分野、特に創薬における標的発見と安全性確保に資する多言語の知識統合環境の構築を目的として研究が行われた。その結果、特発性肺線維症・肺がんの医療テキストを対象としたアノテーション基準の策定、コーパスの構築、テキストの高精度構造化などの実績を挙げた。PRISM 事業の事業方針変更等により、研究期間を5年から2年8ヶ月に短縮としたことを受けて再設定された目標は、期間内に十分達成したと考えられる。また、これらデータは PRISM 創薬プロジェクトに提供され、複数の創薬標的分子の抽出に繋がるなどプロジェクトの成果創出に大きな貢献を果たしたことも評価出来る。

さらに、本研究課題では自然言語分野の研究者が中心となり、医療分野の研究者と将来につながる信頼関係・協力関係を構築し、従来取り扱うことが極めて困難であった読影所見や診療記録といった臨床テキストも対象として研究を進めることを可能とした。このように論文以外の医療テキストデータを活用する研究は、将来大きな潮流となりうるものであり、その先駆的な研究として高く評価出来る。

加えて、医療分野における自然言語処理をさらに発展させるべく、コーパス、辞書、解析システムなどの言語リソースを整備・公開していること、プロジェクトや講演などを通じて情報分野と医薬分野の相互理解の促進に務めた点、若手研究者の育成等にも配慮がなされている点も評価できる。